

羊歯と石炭紀

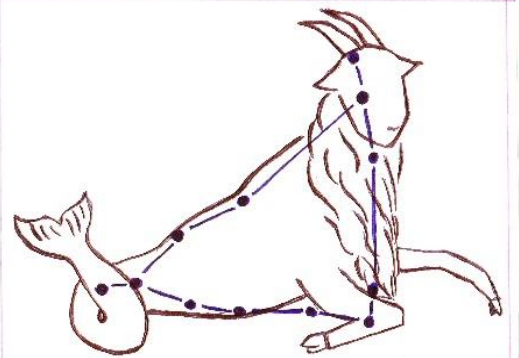
Vol. 2

あいさつ

皆さんお久しぶりです。地学部の人です。
暑かった夏もそろそろ終わり秋の気配を感じるようになりましたね。
最近疲れがとれないのですが今から疲れたとか言ったら2学期中？いやそれもありません。
どうでもいい話はこの辺にして、今日は9月によく見る星座について書きたいと思います！

～やぎ座～

右図の通り、やぎ座のやぎは頭はやぎ、下半身は魚という、変わった姿をしています。こんな不思議な姿になったのには、ある神話が関係しています。
あるところに牧神パーンという神様がいました。ある日、神々がナイル川のほとりで宴会をしていると、怪物テュフォンが現れました。パーンは自ら魚の姿に変え、川を泳いで逃げようとした。しかし慌てていたため下半身しか変えられず、このような姿になったといわれています。

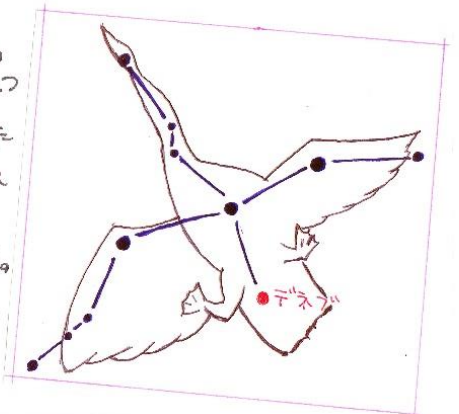
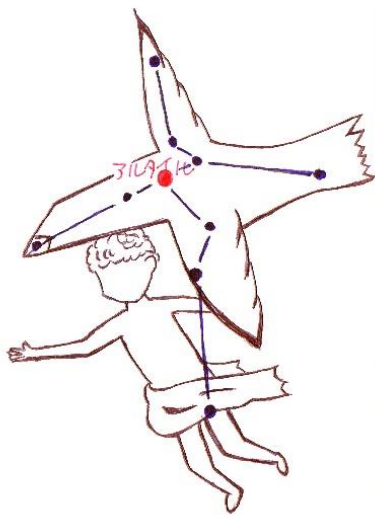


～わし座～

七の爪の星として有名な3ルタイルが中心に位置する星座です。

—わし座の神話—

昔々、セウスというとても偉い神様がいました。ある日セウスは、地上にとても美しい男の子を見つけます。彼がガニメデスといい、彼を気に入り、セウスは、自ら大鷲の姿に変え、彼を連れ去り神々の給仕係にしてしまいました。わし座の鷲はこのときの鷲だといわれています。(ちなみに、ガニメデスはみずがめ座の男の子でもあります。)



～はくちょう座～

はくちょう座のデネブと先ほこの「3ルタイル」、こゝ座のベガが夏の大きな三角を作っています。
—はくちょう座の神話—

実ははくちょう座の白鳥も大神セウスが変身した姿だといわれています。昔々、スパルタという国にとても美しい王妃レダがいました。彼女を一目で好きになったセウスは自ら白鳥の姿に変え、レダに近づきました。はくちょう座の白鳥は、このときの白鳥が空に上がった姿だといわれています。